

農村地域における アメリカザリガニ 防除の手引(要約版)



01 アメリカザリガニってどんな生きもの？（1）

アメリカザリガニの特徴

- 成体は全長が約10cmで、赤みが強い体色です。幼体の体色は淡い茶褐色であり、ニホンザリガニと間違いやすいです。
- 温度が高い水や汚れた水でも生きられるため、河川や湖沼、ため池、水田や用排水路など、様々な水域に生息しています。
- 繁殖力が強く、食欲が旺盛で、水草、トンボのヤゴ、オタマジャクシ、小魚など何でも食べます。



※アメリカザリガニは「条件付特定外来生物」に指定されています。詳しくはこちら➡
<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/jokentsuki.html>



アメリカザリガニの生活史



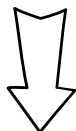
※表の生活史は、農林水産省が実施した実証調査の全国データから得られた事例です。



アメリカザリガニの日本への持ち込みと国内での広がり

アメリカザリガニは、1927年にアメリカから持ち込まれて以降、日本各地の河川や湖沼のほか、ため池や水田、用排水路など農村地域を中心に広く分布しています。

1927年、アメリカから日本に、ウシガエル(食用ガエル)の餌として20匹程度のアメリカザリガニが持ち込まれる。



飼育池からの逃げ出しや放出により日本各地に広がり、北海道や沖縄でも分布を広げている。



現在、全国にいる個体は全て、当時持ち込まれた個体の子孫とされており、強い繁殖力と生存力がうかがえる。



※本図の詳細は「農村地域におけるアメリカザリガニ防除の手引(以下「手引」)」の第2章参照

日本国内に生息するザリガニの種類

国内には4種類のザリガニが生息しています。在来種は「ニホンザリガニ」1種のみです。

ニホンザリガニ (在来種)



分布: 東北以北
生息環境: 湖沼・河川緩流域
成体サイズ: 約8cm(全長)
写真: 中田和義教授提供
(岡山大学学術研究院)

アメリカザリガニ (条件付特定外来生物)



分布: 日本全国
生息環境: ため池や水田、湖沼・河川緩流域、用排水路等
成体サイズ: 約10cm(全長)

ウチダザリガニ (特定外来生物)



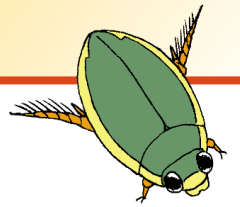
分布: 主に東日本
生息環境: 冷水性の湖沼や河川
成体サイズ: 約15cm(全長)

ミステリー クレイフィッシュ (特定外来生物)



分布: 沖縄県
生息環境: 沖縄県では池で確認
成体サイズ: 最大約10cm(全長)
写真: (一財)自然環境研究センター提供

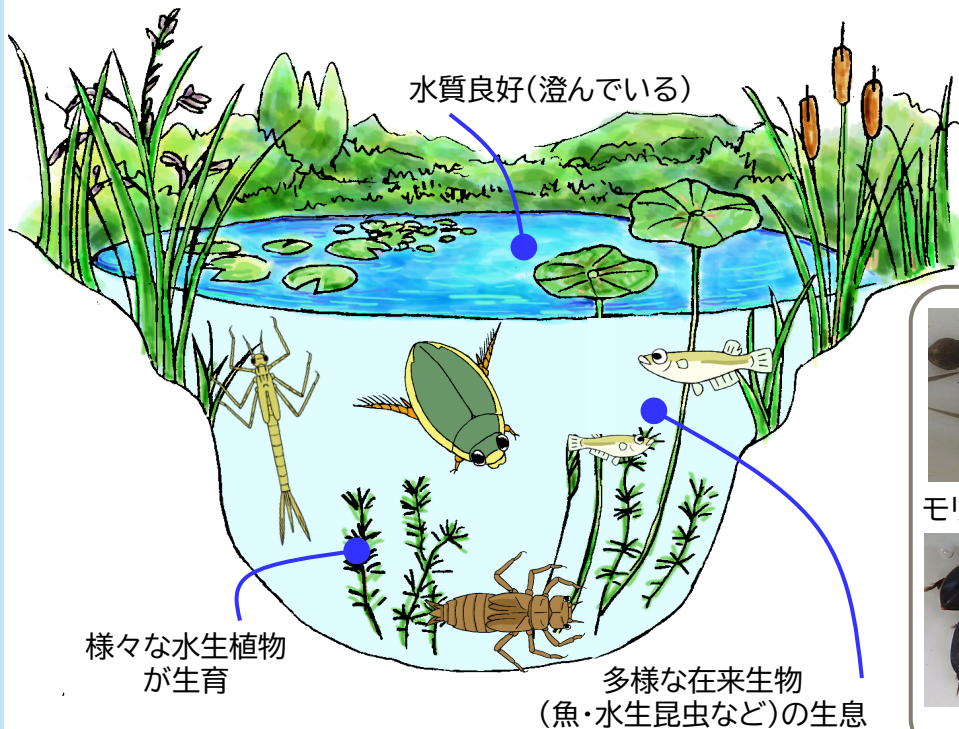
02 アメリカザリガニによる生態系への影響 (1)



アメリカザリガニが生息しているため池では、水生植物や水生昆虫等が減り、水が濁るなど生態系や水質への悪い影響がみられています。

アメリカザリガニが生息していないため池

多様な生物と豊かな自然環境の存在



水生植物が生育し、水は澄んでいる



モリアオガエル(幼生)



アカハライモリ



ゲンゴロウ類

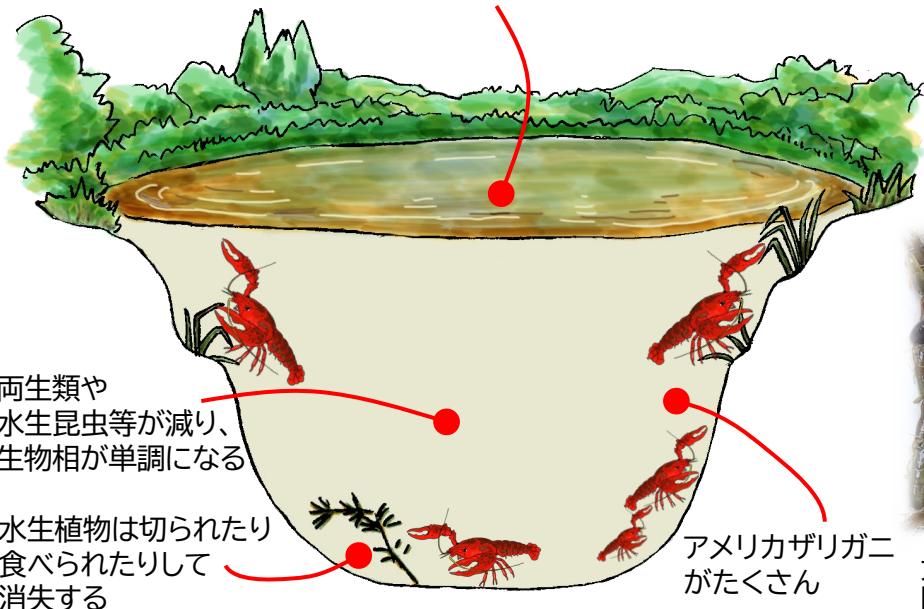


トンボ類のヤゴ

アメリカザリガニが大量に生息しているため池

生物の営みを感じられない貧弱な環境

アメリカザリガニの徘徊や巣穴を掘ること等により底質が巻き上がり、水質が悪化(濁る)



一年中濁っていて水草は見られない



マツモムシ

大量のアメリカザリガニによりマツモムシなど限られた水生昆虫のみが生息

影響の実例

下の写真は、「東北地域の小規模なため池」を、時期を変えて同じ角度から撮影したものです。アメリカザリガニが生息していなかった平成24(2012)年当時とその後の写真を比べると、**ため池の様相が劇的に変化**していることが分かります。

あなたがお住まいの周辺のため池でも、こんな兆候はありませんか？

平成24(2012)年8月撮影



以前は緑豊かなため池の様相でした。
ハスは地元の方が自ら植えたものです。



元は様々な種類の水生生物が生息

令和3(2021)年7月撮影



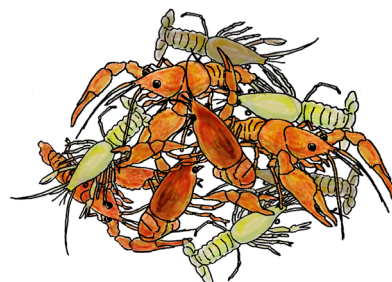
約10年が経過して、
ため池の様相は変わりましたが、
地元の方は変化の前兆に全く気付かなか
ったとのこと。



令和6(2024)年6月撮影



さらに3年が経過して、
ため池の様相は急激に変わりました。



気付けば、水は濁り、水生植物は姿を消し、
ため池の中はアメリカザリガニだらけ…。

03 アメリカザリガニによる農業関係の被害

- アメリカザリガニは水際に深い巣穴を掘ります。このため、生息密度が高くなると多くの巣穴ができ、ため池の堤体がもろくなり崩れることがあります。
- また、水田の畦(あぜ)に穴を開けて漏水を引き起こし、水田の水管理に影響を与えるほか、放っておくと畦が崩壊することもあります。



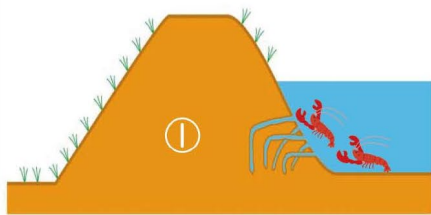
巣穴による「ため池堤体の損壊」の事例(山口県山口市)

ため池

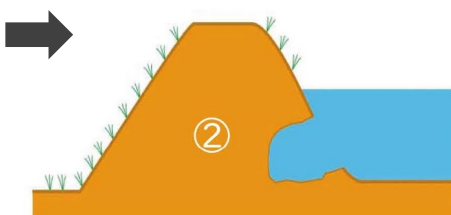


ため池の
安全性の低下

①アメリカザリガニの増殖、
堤体を穴だらけに！



②巣穴が重なって空洞化、
堤体がえぐられる!!



③えぐれの上側が崩落、
堤体が弱体化!!!



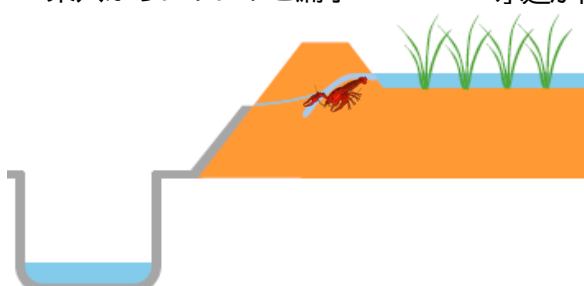
巣穴による「畦崩壊」の事例(愛知県安城市)

水田周り

①アメリカザリガニが掘った
巣穴からジワジワと漏水

②水が巣穴に流入し
水道が徐々に拡大

③畦がもろくなり、降雨により増水した
水の水力で畦と水路壁が崩壊!!



維持管理
の負担増



初めはしみ出す程度

(写真: 愛知県農業総合試験場提供)



(写真: 愛知県農業総合試験場提供)

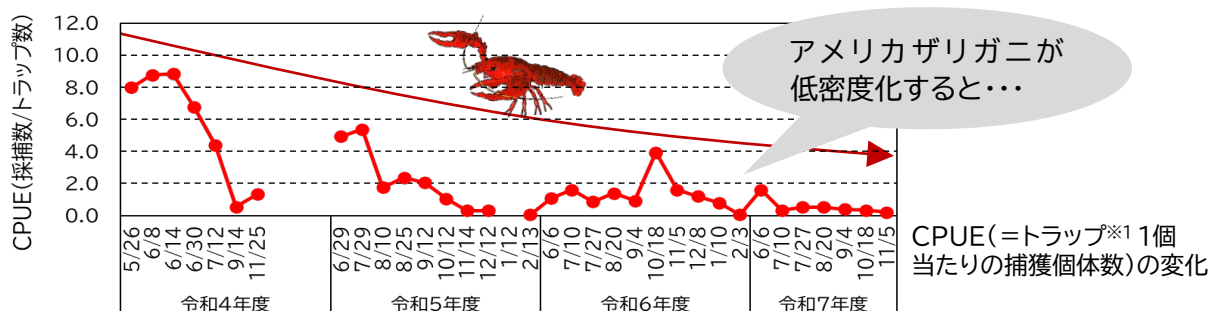
駆除を継続することで、生きものの種数や個体数が増加！

- アメリカザリガニは一度侵入してしまうと根絶が非常に難しい外来種です。高密度になるほど駆除にコストがかかります。早い段階で駆除に取り組み始めることが重要です。
- 山口市の小規模なため池では、約3か年にわたる駆除活動により、アメリカザリガニの低密度化が進むことで、トンボ類や両生類など様々な生物の回復が確認されました。
- 駆除を継続することで、農業関係の被害の減少と合わせて、様々な「水生動植物の回復」や「水質(濁り)の改善」も期待できます。

駆除の進行状況とその後の効果

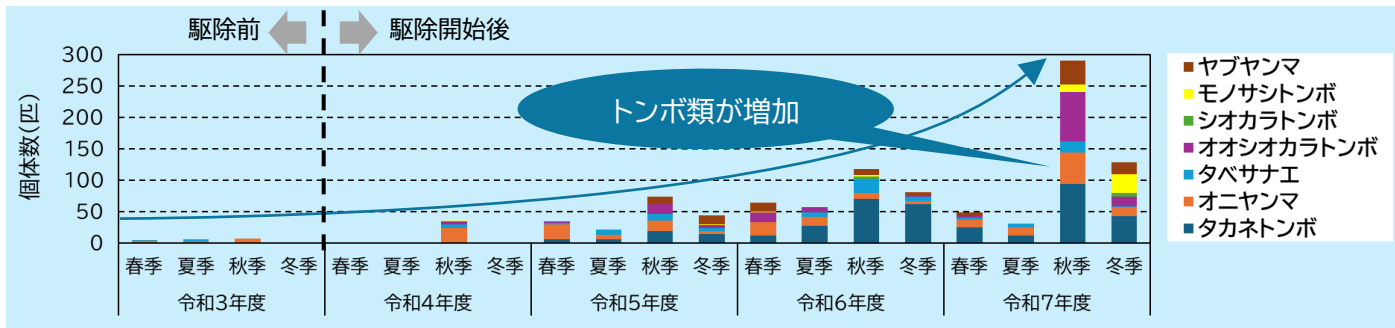
※1 トラップとは、トラップ式漁具(p7-8参照)を指す。
水域に一定期間設置し、その間に捕獲された個体を回収する。

●アメリカザリガニ駆除の進行状況※2

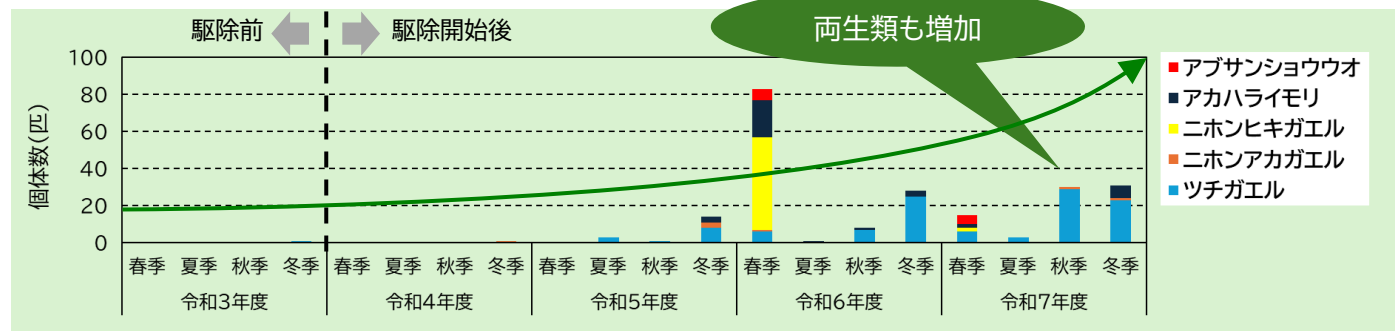


水生動植物の種数や個体数が徐々に回復します！

●トンボ類(水底生活型)の種数・個体数の経年変化※2



●両生類の種数・個体数の経年変化※2



幼虫



成虫



タカネトンボ



アカハライモリ



ツチガエル



モリアオガエル

※2 岡山大学未発表データより作成(令和8(2026)年3月現在)

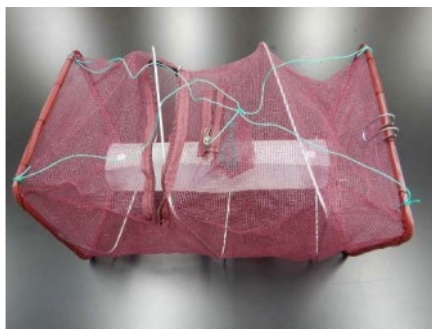
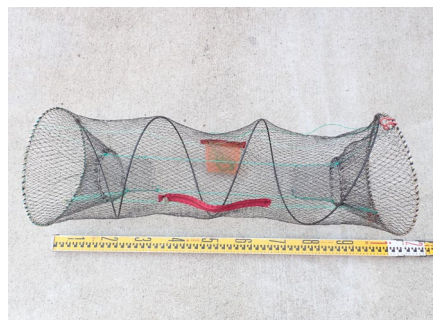
漁具の特徴

- 各漁具の特徴や捕獲したい個体サイズ、作業コストなどを踏まえて、効果的な漁具を選びましょう。複数の漁具を組み合わせることで捕獲の効率が高まります。
- 都道府県が定める漁業調整規則で禁止・制限されている漁具等を用いる場合、都道府県知事による特別採捕許可を受ける必要がありますので、事前に、都道府県の関係窓口(水産部局)に必ず確認しましょう。

カゴ網



角型カゴ網

角型カゴ網(改良型)
(アタッチメント付カゴ網※1)

あなごカゴ



かにカゴ

特徴

- 大型個体の捕獲に最適
出入口にネットを付けることで
小型個体も捕獲可能
(手引の第3章参照)
- 誘引用の餌が必要
- 設置後、翌日に回収が必要
- 1週間に1～2回程度の設置が
より効果的
- 通信販売等で入手が容易

※1 アタッチメント付カゴ網のアタッチメントは、岩手県立大学が開発し、特許を取得しています。(特許第7807072号、令和8年1月19日登録)。同じものを使用したい場合、非営利の活動での使用は特に制限はありませんが、営利目的で作製・使用する場合は必ず事前に下記まで相談してください。

【問合せ先】

岩手県立大学 研究・地域連携室

メール: chizai@ml.iwate-pu.ac.jp

連続捕獲装置 ※2

明室
(餌で誘引)

暗室
(誘引した個体を捕獲)



漁具の長さ:約150cm

連続捕獲装置(タイプ①)

明室
(高密度メッシュのカゴを使用し、
タイプ①よりも暗い。)



漁具の長さ:約105cm

連続捕獲装置(タイプ②)

※2 「NPO法人シナイモツゴ郷の会」が特許を取得しており、同団体から購入するか、複製する際は同団体へ問い合わせる必要があります(手引の第7章参照)。

特徴

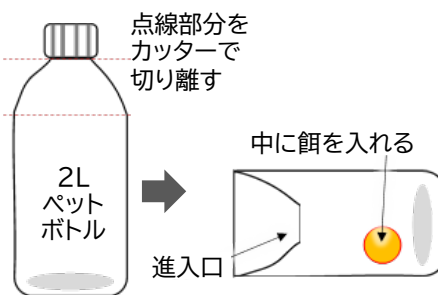
- ため池では捕獲効率が最も高い
- ①は特に全長75mm以上の
個体の捕獲に最適
- ②は全長75mm以下の
個体の捕獲に最適
- 誘引用の餌が必要
穴開きのプラスチック製密閉容器
に入れると餌が長持ちする。
- 回収頻度は1～2週間に1回程度

トラップ式漁具(カゴ網、連続捕獲装置)に入れる餌

- アメリカザリガニを誘引しやすい餌として、釣り用の練り餌、魚類飼育飼料、ドッグフード等が適しています。
- 餌は定期的に補充や入替えが必要です。茶こし袋や穴を開けた容器に入れると長持ちさせることができます。

餌を茶こし袋に入れて
水質悪化を防止四方に穴を開けた
プラスチック製密閉容器

ペットボトルトラップ



ペットボトルトラップの作り方

特徴

- ・ 初心者でも扱いやすい大きさ
- ・ 浅い場所にも設置可能
- ・ 誘引用の餌が必要
- ・ 廃棄ペットボトルを用いるため
安価に作成可能

人工水草



特徴

- ・ 小型個体の捕獲に最適
- ・ ノリ養殖網を用いて自作可能
- ・ 餌不要
- ・ 駆除効果を維持するために、
ゴミや落ち葉等の定期的な
除去が必要
- ・ 回収頻度は2週間に1回程度

人工巢穴

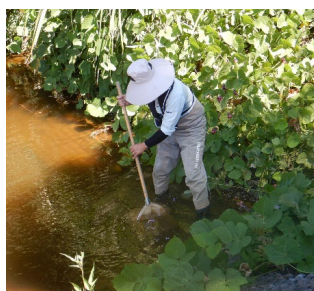


(写真:愛知県農業総合試験場提供)

特徴

- ・ 抱卵雌・抱稚仔雌の捕獲に最適
- ・ 水深が浅くても設置可能
- ・ 塩ビ管を用いて自作可能
- ・ 設置後、翌日に回収が基本
- ・ 餌不要かつ設置期間は任意で
設定可能なため、週に1～2回
程度の回収でも可能
- ・ 回収は日中のなるべく早い
時間帯が望ましい。

タモ網



特徴

- ・ 小型個体の捕獲に最適
- ・ 誰でも使えるが、捕獲効率を高めるには捕獲技術が必要
- ・ 作業労力は大きい
- ・ 1週間に1～2回程度の作業が効果的

サデ網



ため池の場合

水際の植生帯、樹木の陰、緩やかな流れのあるところ（流入部や余水吐の近く等）にトラップ式漁具を設置すると効率よく捕獲できます。

漁具	ため池での適用性	
カゴ網	◎	陸上から設置・回収が可能な点から適する。
連続捕獲装置	◎	陸上から設置・回収が可能で、捕獲効率が最も良い。
ペットボトルトラップ	△	ため池の規模によっては数多くの設置が必要という点で効率が悪い。
人工水草	◎	陸上から設置・回収が可能な点から適する。
人工巢穴	○	抱卵雌を効率よく駆除可能。
タモ網・サデ網	△	ため池は安全な浅場が少なく、駆除作業が困難なことが多い。

凡例 ◎:とても適している、○:適している、△:条件によっては適さない

ため池での漁具の効率的・効果的な設置場所



A. 水際の植生帯
(ヨシやマコモ等)

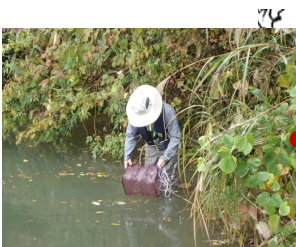


B. 樹木によって陰が
形成されている場所



C. 緩やかな流れがある場所
(流入部や余水吐の近く等)

水際の植生帯や樹木の陰、
緩やかな流れがある場所
ではカゴ網や連続捕獲装置
が効果的

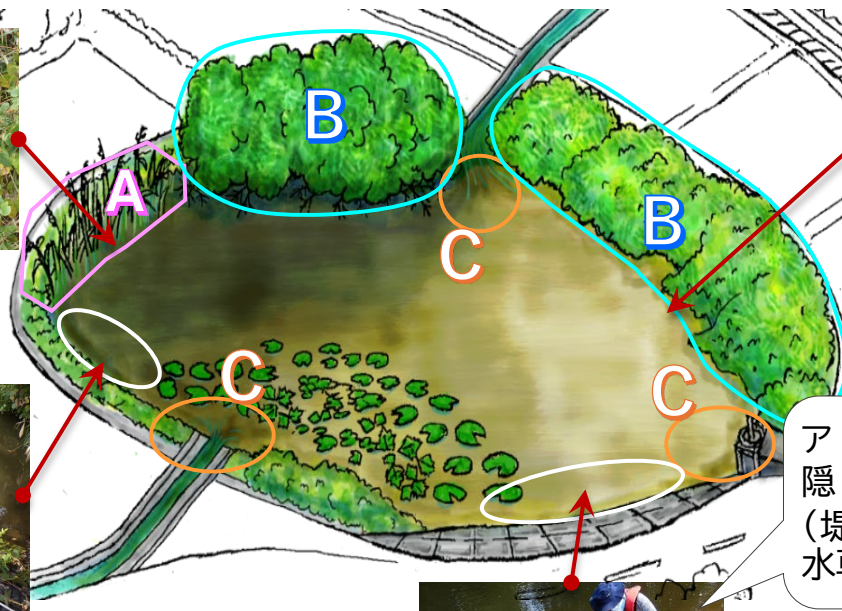


カゴ網



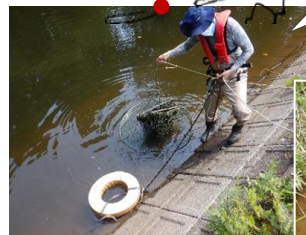
タモ網

立入可能な深さであれば、
岸際の堆積物の多い場所で
タモ網を用いることも可



連続捕獲装置

アメリカザリガニの
隠れ場所がない環境
(堤体周辺等)では人工
水草も効果的



人工水草



ため池での作業の留意事項

- ◆ため池内は護岸部がすり鉢状となっており、池の中に落ちた場合、自力で這い上がることが困難です。
- ◆ため池内に立ち入る時は、必ずライフジャケットを着用し、二人以上で作業を行いましょう。

用排水路の場合

水路内の流速と水深の状況によって効果的な漁具が異なります。
うまく使い分けましょう。

漁具	水路での適用性	
カゴ網	○	漁具の入り口と誘引餌が十分に水中に浸る水深があり、流れが緩やかな場所であれば設置可能。
連続捕獲装置	○	漁具の入り口と誘引餌が十分に水中に浸る水深があり、流れが緩やかな場所であれば設置可能。
ペットボトルトラップ	○	餌が水中に浸る水深があれば設置可能。本体が軽く流されやすいので、紐等でしっかり固定する。
人工水草	○	全体が水に浸かり、流れが緩やかな場所であれば設置可能。
人工巢穴	○	水深が浅く、流れがごく緩やかな場所であれば設置可能。
タモ網・サデ網	◎	水路内のゴミ等とまとめてすくい上げることで効率よく駆除可能。

凡例 ◎:とても適している、○:適している、△:条件によっては適さない

用排水路での効率的・効果的な設置場所

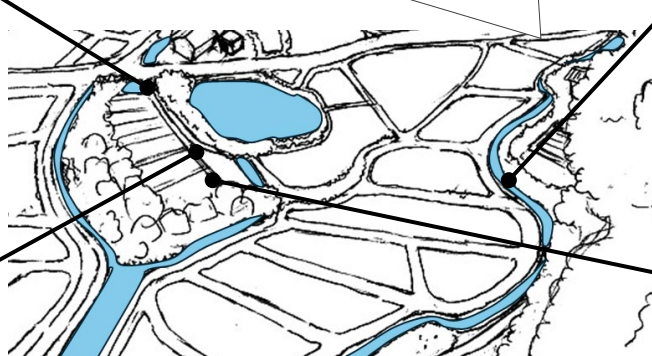


構造物の陰(タモ網)



集水ます(あなごカゴ)

山からの染み出し水等で一年中通水している水路区間があれば、優先的に漁具を設置するとよいでしょう。



用排水路内(あなごカゴ)



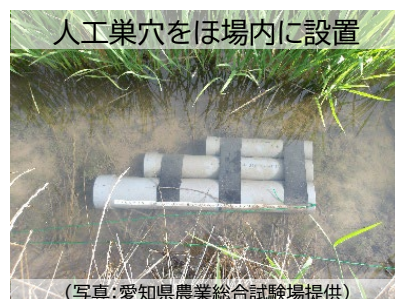
堆砂部など(タモ網)

水田の場合

設置可能な漁具は限られます。
営農作業に支障のない場所に設置しましょう。

漁具	適用性	
カゴ網	△	設置に必要な水深が足りない場合が多い。
連続捕獲装置	△	設置に必要な水深が足りない場合が多い。
ペットボトルトラップ	◎	浅い水深でも設置可能であり、捕獲効率も良い。
人工水草	△	設置に必要な水深が足りない場合が多い。
人工巢穴	◎	浅い水深でも設置可能。抱卵雌を効率よく駆除可能。
タモ網・サデ網	△	浅い場所に集まった小型個体をすくい上げることは可能。

凡例 ◎:とても適している、○:適している、△:条件によっては適さない



人工巢穴をほ場内に設置

(写真:愛知県農業総合試験場提供)



ペットボトルトラップと買物カゴを組み合わせた装置

(写真:愛知県農業総合試験場提供)

アメリカザリガニの体サイズ・生活史に応じて、いくつかの漁具を組み合わせたり、適切な時期に駆除を行ったりすることで、捕獲効率を上げましょう。

※本図はほぼ原寸大です。



サイズ区分	小型・中型個体 (頭胸甲長23mm未満)	大型個体 (頭胸甲長23mm以上)	抱卵個体 (頭胸甲長27mm程度以上)
漁具	- タモ網・サデ網 - 人工水草 - あなごカゴ(改良あり)※手引の第3章参照 - 連続捕獲装置	- 連続捕獲装置 - あなごカゴ - カゴ網 (アタッチメント※p7参照の装着が望ましい)	人工巣穴
効率的な駆除のタイミング	特に繁殖盛期後(9月以降)に小型個体が増加するため、捕獲効率が高くなる。	- 特に春と秋の繁殖期(前後含む)に活動的になるため捕獲効率が高くなる。 - 通年で捕獲を行うことが望ましい。	- 繁殖盛期は9～10月で、抱卵個体は6月頃からみられる。 - 繁殖盛期に入る前(7～8月頃)からの設置が望ましい。

◆水田での防除の工夫

かんがい期

代かき前



水稻栽培期間中



(写真:愛知県農業総合試験場提供)

- 石灰窒素は、水稻のザリガニ防除に使用可能です。ラベルの記載内容を遵守して使いましょう。
- 人工巣穴やペットボトルトラップが有効です。

非かんがい期



- 畦塗りは既存の巣穴を塞ぎつつ畦の締め固めにより、新たな巣穴を抑制する効果が期待できます。

愛知県内のほ場でのアメリカザリガニ駆除に係る試験によると、以下のようなことが分かりました。

- 水田内の捕獲には人工巣穴が効果的であることが分かりました。
- 最大900個の卵を抱えていることもある抱卵雌や抱稚仔雌が多く出現する、9月から落水の時期までがより効率的であることが示唆されました。

(愛知県農業総合試験場の試験結果より)

◆用排水路での防除の工夫



集水ますや構造物の下などに漁具を仕掛けておきましょう。



アメリカザリガニの隠れ場になりうる堆積土や水草は、定期的に除去しましょう。



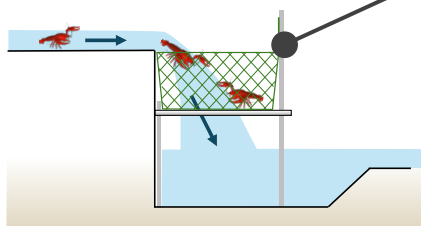
泥上げした泥の中にアメリカザリガニがいる場合、殺処分しましょう。

◆ため池での防除の工夫



非かんがい期の池干しは、アメリカザリガニを一斉に捕獲する絶好の機会です。

流出するアメリカザリガニ等を受け止めるネットや金網の設置。



水抜きの際は外来生物等の下流側への逸出防止に努めましょう。(例:ネットの設置)



池干し時は在来生物を一時的に保護し、池干し後に戻すことが望ましいです。

駆除効果の主な評価方法と評価結果の活用

- より効率的に駆除を行うため、駆除効果进行评估し、評価結果を踏まえて活動内容等を適宜見直していきます。
- 評価方法は主に以下の3つがあり、単位努力量当たりの捕獲数(CPUE)を用いた数値的な評価方法のほか、生物の生息状況や水質の改善状況を用いたり、巣穴密度や堤体の損壊状況等を用いたりする定性的な評価方法があります。

評価方法①：単位努力量当たり捕獲数(CPUE＝捕獲した個体数 ÷ 捕獲努力量^{※1})を用いた評価

CPUEを用いてアメリカザリガニの低密度化の進行状況进行评估します。

●CPUEの算出例

例①(トラップ式漁具による駆除)

(※1) 捕獲努力量は、「設置した漁具数」を用います。

→10基のカゴ網を用いて30個体を捕獲した場合、 $30\text{個体} \div 10\text{基} = 3.0$

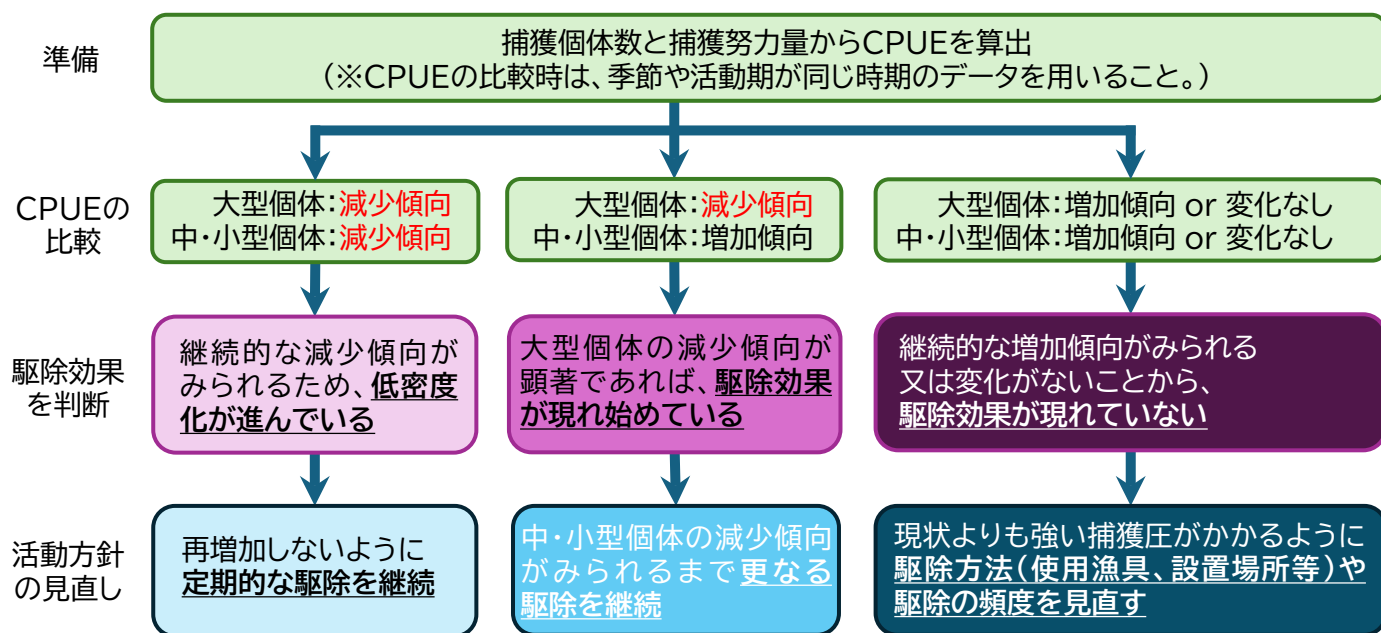
例②(直接捕獲型漁具による駆除)

(※1) 捕獲努力量は、「駆除作業時間」を用います。

→2人で30分間の駆除作業により10個体を捕獲した場合、 $10\text{個体} \div 1.0\text{時間}^{\ast 2} = 10.0$

(※2) 駆除作業時間は作業人員を考慮するため、 $2\text{人} \times 0.5\text{時間} = 1.0\text{時間}$ となる。

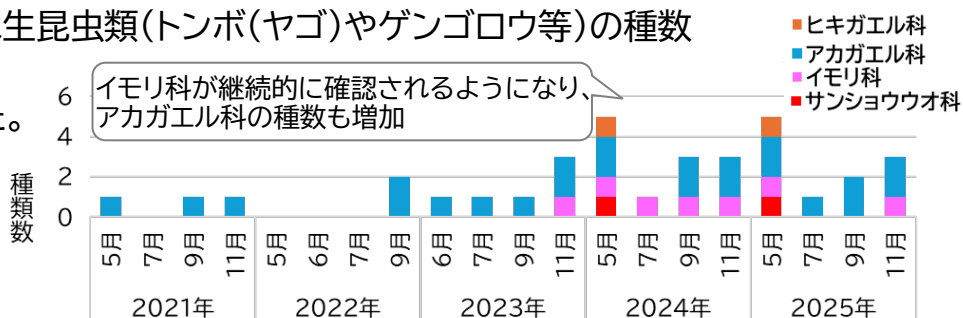
●CPUEによる評価と駆除内容の見直しの流れ



評価方法②：生物の生息状況や、水質の改善状況を用いた評価

生物生息状況等の以下のような変化からアメリカザリガニの生息密度の低減を推測します。

- 両生類(カエルやイモリ等)や水生昆虫類(トンボ(ヤゴ)やゲンゴロウ等)の種数や個体数が増加。
- 抽水植物が根付くようになった。
- 水の濁りが改善した。



評価方法③：巣穴密度や堤体の損壊状況等を用いた評価

ため池等の以下のような見た目の変化からアメリカザリガニの生息密度の低減を推測します。

①畦やため池の巣穴が減少 / ②水田の漏水箇所が減少 / ③畦上のチムニー※が減少

※巣穴の入口周辺にみられる塚状の土の盛り上がりを目指す。

評価のためのデータや写真の記録

低密度管理に移行できるかどうかを判断するために、捕獲数のデータやため池の写真等を記録しておくことが望ましいです。



捕獲結果を記録する

アメリカザリガニ駆除 記録野帳

天候：

野帳の通しNo.：

調査場所 ●●●ため池

記録者：

日時：20XX年 月 日						
No	漁具の種類	漁具No	採捕した生物	個体数	写真	備考（目視等）
1	カゴ網	①	アメリカザリガニ	20	✓	餌はドッグフード
2	カゴ網	①	モツゴ	1		
3	カゴ網	②	アメリカザリガニ	15	✓	餌はドッグフード
4	カゴ網	②				
5						

駆除に用いた
同じ種類の漁具
個々の漁具に

漁具ごとに捕獲できたアメリカザリガニの数を記入しましょう。

同じ漁具で他の生物が捕獲できた場合も記録しましょう。

駆除に用いた漁具を記載します。
同じ種類の漁具を複数個用いた場合でも
個々の漁具について分けて記録しましょう。

アメリカザリガニ採捕調査（個体の測定）

No.	頭胸甲長(mm)	漁法	性別	セメント腺有無	備考
1	27	(カゴ)連続/人草/人巣/タモ	雄 / 雌	(有) / 無	
2	24	(カゴ)連続/人草/人巣/タモ	雄 / 雌	(有) / 無	
3	18	(カゴ)連続/人草/人巣/タモ	雄 / 雌	有 / 無	
4	18	(カゴ)連続/人草/人巣/タモ	雄 / 雌	有 / 無	
5	21	(カゴ)連続/人草/人巣/タモ	雄 / 雌	有 / 無	

人手の余裕があれば
頭胸甲長も測っておきましょう。

記録野帳はここから
ダウンロードできます



写真や動画を撮影する

撮影場所と方向を決めて、
できるだけ同じような見方で撮影しておくと比較がしやすくなります。



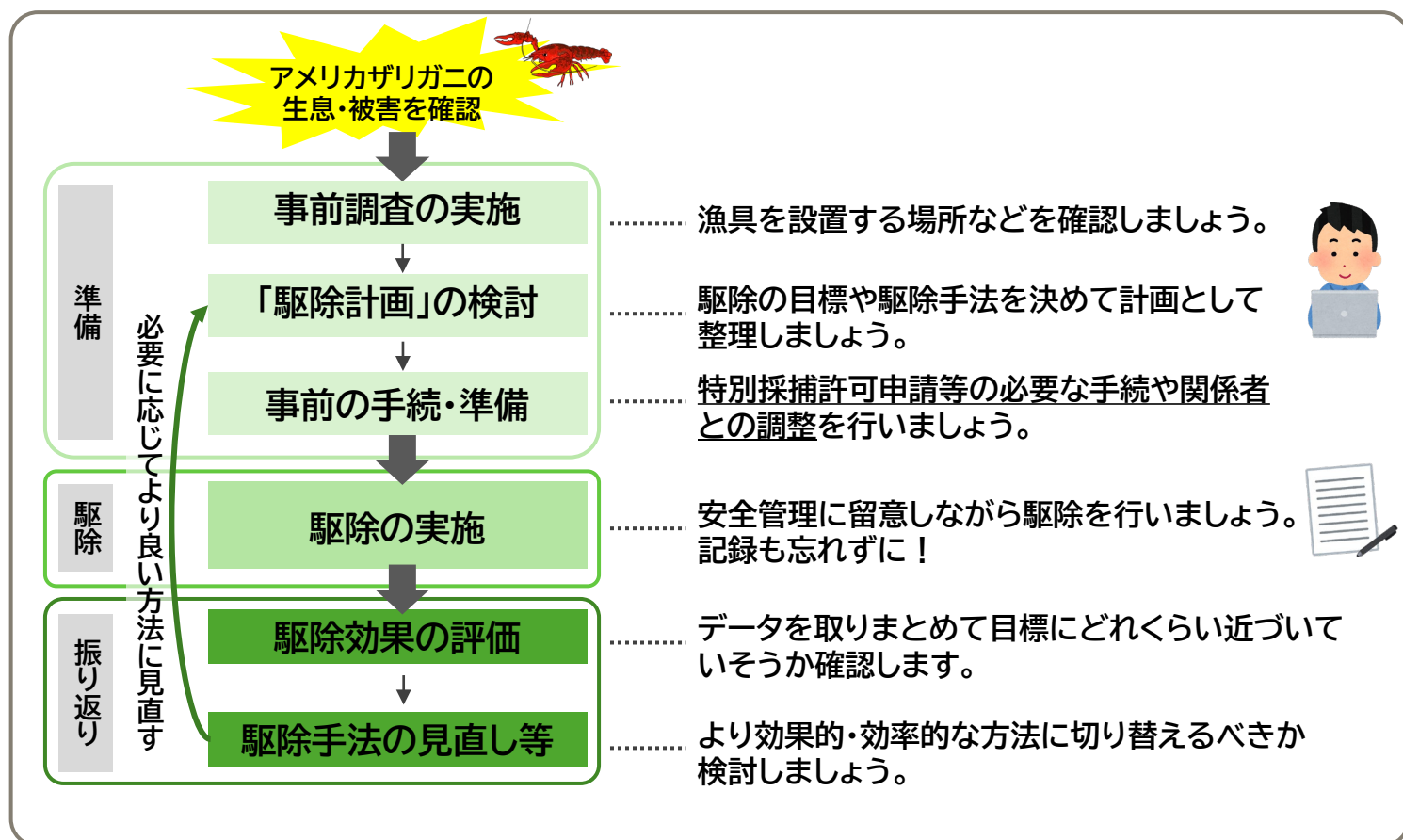
捕獲した個体は、漁具単位でまとめてバケツ等(逃げないように深めのもの)に入れ、定規と一緒に撮影しましょう。



池の透明度の変化や植生の回復状況は写真で判断することもできます。
駆除前の写真も忘れずに撮影しておきましょう！

順応的な駆除活動の流れ

- 駆除の目標や方法などを「駆除計画」として整理することで、駆除活動の効果を確認しながら、順応的に駆除を継続していきましょう。



駆除計画を作しましょう(任意)

駆除計画の様式は
ここからダウンロードできます



【駆除計画の主な項目】

項目	内容
(1) 駆除の目標	“目指す状態”を数値やため池の見た目などで設定する。
(2) 駆除活動の実施期間	(1)の目標を達成するための活動期間を設定する。
(3) 駆除の内容	使用する漁具や設置場所、実施時期、回数などを決める。 (P.7～12参照)
(4) 駆除の実施体制	駆除を行う主なメンバーや役割を整理する。
(5) 駆除個体の処分方法	地方公共団体の廃棄物のルールを確認し、処分方法を決める。
(6) 結果の記録・評価方法	記録する項目を事前に決めて、記録野帳なども準備する。 (p14参照)
(7) 必要な手續	駆除活動に必要な許可・申請の内容や方法を整理し、 地方公共団体の担当部局等と事前に調整・相談をする。
(8) 安全管理・対策	安全管理・対策の具体的な内容や、緊急連絡先などを明示する。
(9) その他の留意事項	現地作業時の留意事項を確認し、計画に記載する。

駆除個体の処分方法を決めておきましょう。

- ・ 捕獲したアメリカザリガニは逃げ出さないように密閉した容器で持ち帰り※1、冷凍などにより殺処理をした後に、廃棄又は埋設をしましょう。
- ・ 埋設する場合は、野生生物に掘り返されないよう深く埋めることが望ましいです。なお、各地方公共団体の担当窓口には必ず事前に相談しましょう。
- ・ 冷凍の場合は、1晩では蘇生する場合があるため、1週間程度冷凍庫で保管しましょう。
- ・ 廃棄する場合は各地方公共団体の分別や廃棄物処理ルールに従い、一般ごみ又は事業系ごみとして廃棄しましょう。



密閉して持ち帰った後に冷凍

※1 防除事業の一環での飼養等(生きた状態での持ち帰り等)は、「業」としての飼養等に当たるため飼養等基準を遵守する必要があります。

アメリカザリガニの飼養等基準の内容について(環境省HPより)

→ https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/pdf/amezari_shiikukijun.pdf

駆除に当たっては許可申請※2が必要な場合があります。

漁業調整規則
(一部の県では
「内水面漁業調整規則」)

内水面における水産動植物の採捕に際し、水産動植物の種類や大きさ、採捕の期間や区域、使用する漁具や漁法について禁止又は制限をしている場合があります。そのため、漁業調整規制の適用を除外するための特別採捕許可が必要な場合があります。まずは、都道府県の関係窓口(水産部局)に確認してみましょう。

外来生物法

アメリカザリガニは条件付特定外来生物のため、防除活動の許可申請などは基本的に不要ですが、放出、頒布、購入などの規制がありますので、事前に確認してください。

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/kisei.html>

※2 ここで例示した他にも手続が必要となる場合がある。詳細は手引の第5章参照。

事前・当日の安全管理・対策は万全に！



- ・ ため池周辺の危険箇所を事前に確認しましょう。
- ・ 流れの速い水路では、水深が浅くても足が取られるため、注意しましょう。



- ・ 危険生物の対策を万全に！
(スズメバチ、マムシ、ダニ、クマ等)
- ・ かぶれやケガの原因となる植物もあるため、長袖・長ズボン・帽子等を着用しましょう。



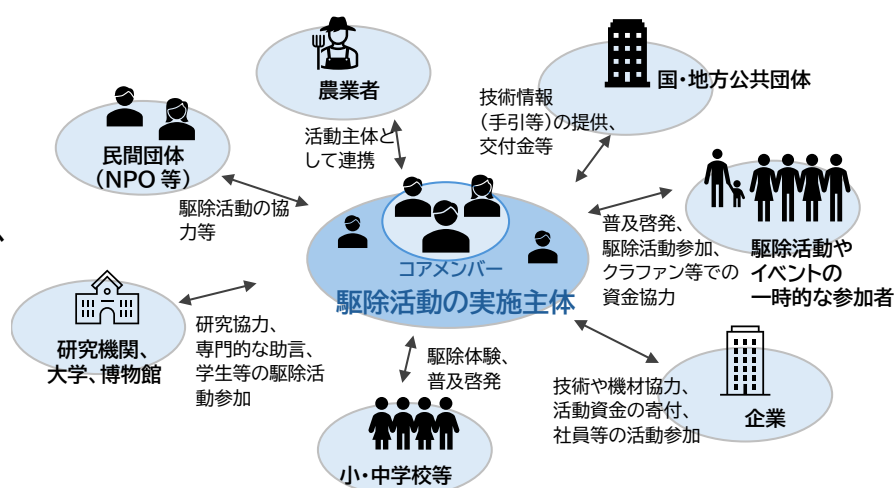
- ・ 駆除作業やイベントの開始前に危険な場所や注意点について、お互いに声に出して確認しあいましょう。



- ・ 夏期の駆除活動では熱中症対策は必須です。
- ・ 水分や塩分の補給、こまめな休憩を呼びかけましょう。

駆除活動を“継続”するための体制をつくる

- ・ アメリカザリガニの駆除活動を途中で中止してしまうと、あっという間に元の状態に戻ってしまいます。
- ・ 低密度管理に移行できるまで、駆除活動を継続することが何よりも大切です。
- ・ 目的に応じて他の組織からの協力も得ながら、無理なく継続できる実施体制を構築していきましょう。



目的に応じて多様な主体と連携し、
活動の継続性を確保しましょう

実施体制における活動主体の役割

事務局機能の維持

- ・ 年間の活動内容の整理・共有
- ・ 活動継続のための資金の調達
- ・ 中心メンバーの確保・育成（リーダー、経理 等）



駆除活動の方針・目標等の検討と実践

- ・ 駆除計画の作成・見直し
- ・ 駆除活動の実務作業一式（関係者との調整、許可申請、安全管理等）
- ・ 記録の取りまとめ等



外部参加者・協力者の巻き込み

- ・ 企業・民間団体等との連携に向けた声かけや、イベント等を通じた継続的な活動参加者の巻き込み



専門家等との連携

- ・ 専門家※に対して、計画への助言、生物調査時の同定等の協力を依頼

※専門家の例

- ・ 近隣の大学の教授、
- ・ 研究機関職員、
- ・ 博物館等の学芸員 等



情報発信

- ・ 活動実績の発信（SNSやWEBサイト運営）
- ・ イベント等の募集案内



普及啓発

- ・ 勉強会やパンフレット配布等によるアメリカザリガニの被害実態、駆除の必要性等の普及啓発



資金調達手段の例

- ▶ 多面的機能支払交付金（農林水産省）
農村環境保全活動のうち、「外来種の駆除」として活動できます。
(https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai.html)

NPO法人シナイモツゴ郷の会(宮城県大崎市)

シナイモツゴ(絶滅危惧種)を守るため、ブラックバスやアメリカザリガニの駆除、住民や児童も参加しての保護増殖や環境啓発に長年取り組んでおり、本種の保護増殖に成功している。



シナイモツゴ(絶滅危惧種)



地元農業者への指導



アメリカザリガニ駆除研修



捕獲したアメリカザリガニ



学生の駆除体験学習



アメリカザリガニの試食

写真:NPO法人シナイモツゴ郷の会提供

嘉年ゆめ倶楽部(山口県山口市)

ほ場整備を機に組織された地元環境保全団体。令和2年から、夏休みの児童親子を対象に、ビオトープの保全作業やため池でのアメリカザリガニ駆除などを内容とする「生きものの観察会」を開催し、地域住民に豊かな環境の継承と環境保全活動への参加を促す取組を行っている。



開催案内(チラシ)



生きものの観察会



アメリカザリガニの解説



アカハライモリ



アブサンショウウオ



イシドンコ

中国四国農政局の調査で確認された在来生物



よくある質問

Q. アメリカザリガニの駆除において、環境省の外来生物法が定める防除計画の作成・申請は必要ですか。

A. 捕獲や、環境省が定める飼養等基準を遵守した条件付特定外来生物の運搬・一時保管については、申請不要です。ただし、捕獲したアメリカザリガニを生きたまま販売・頒布する場合等申請が必要な場合もあります。

以下の二次元バーコードからご覧になれます↓



アメリカザリガニの規制の詳細は以下のリンク先をご覧ください。

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/kisei.html>

Q. アメリカザリガニの駆除の際に必要な許可・申請はどのようなものがありますか。

A. 各都道府県の漁業調整規則に基づく特別採捕許可の他、希少な生物が生息している場合は、国が定める種の保存法や文化財保護法等に基づく捕獲許可申請等が必要となることがあります。

Q. アメリカザリガニの駆除を行う際に、特別採捕許可申請は必須ですか。

A. 駆除を検討している場所や期間、使用する漁具等が、都道府県が定める漁業調整規則により禁止又は制限されている場合、申請が必要です。まずは各都道府県の水産部局の担当窓口を確認してみましょう。

Q. 駆除したアメリカザリガニは生きたまま持ち帰ってもよいですか。

A. 個人が飼育する範囲では持ち帰ってもよいですが、飼えなくなったからといって池等に放出するのは違法となります。

より詳細な規制内容については環境省のホームページをご確認ください。

<https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/regulation/kisei.html#qa1>



関連資料



このパンフレットの記載内容は、農林水産省が公表している『農村地域におけるアメリカザリガニ防除の手引』にて、より詳しく解説しています。

以下の二次元バーコードからご覧になれます↓



環境省が発行している『アメリカザリガニ対策の手引き』(2022年)や『アメリカザリガニ防除マニュアル』(2023年)も併せてご覧ください。

以下の二次元バーコードからご覧になれます↓



お問合せ先

■お問合せ先：農林水産省 農村振興局 農村政策部 鳥獣対策・農村環境課 農村環境対策室
代表:03-3502-8111(内線5490)/ダイヤルイン:03-3502-6091

(令和8(2026)年3月)